

令和6年度 学校経営計画に対する中間評価報告書

石川県立津幡高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）
1 基本的な生活習慣の確立（挨拶の励行、規範意識の確立、清掃の徹底）	① 教職員が率先して挨拶に取り組み、礼儀正しく、元気で活発な生徒を育成する。	生徒がすすんで挨拶していると思う保護者が A 95%以上である。 B 90%以上である。 C 85%以上である。 D 85%未満である。	B 7月の教育活動に関するアンケート（保護者）94%	生徒指導課 昨年度中間96% 最終評価94%であり、維持している。毎日の登下校指導や朝礼・終礼、授業や集会などの機会をとらえて、しっかり挨拶していくことが、よりよい人間関係を作っていくことに繋がることを生徒へ伝えていきたい。
	② 服装容儀の指導を徹底し、生徒の規範意識の向上を図る。	積極的に服装容儀・頭髪やマナーなどの向上に努めた生徒が A 95%以上である。 B 85%以上である。 C 75%以上である。 D 75%未満である。	A 7月の教育活動に関するアンケート（生徒）97%	生徒指導課 昨年度中間94% 最終評価95%であったが、数値が上昇しA評価となった。服装容疑指導は、生徒・保護者が納得できることが大切なので、内容説明をしっかりとしていきたい。
	③ 規則正しい家庭生活を送るよう指導することで、遅刻する生徒を減少させる。	遅刻総数が過去5年間の平均値と比べて、変化率が A 10%以上の減少である。 B 10%未満の減少である。 C 10%未満の増加である。 D 10%以上の増加である。	C 7月の教育活動に関するアンケート（生徒）2.5%増	生徒指導課 7月までの遅刻総数の過去5年平均値は317である。昨年度440で今年は325になっており、かなり改善されているが平均値よりは多い数値となっている。今後も引き続き減少に向けて指導をしていきたい。
		遅刻をしない、減らすように努めている生徒が A 100%である。 B 90%以上である。 C 80%以上である。 D 80%未満である。	B 7月の教育活動に関するアンケート（生徒）97%	生徒指導課 遅刻の多い生徒や不登校傾向の生徒に対し、どうすれば改善できるか、寄り添い一緒に考えていくような指導を増やしていきたい。
	④ 清掃の徹底により、学習環境の向上とさわやかで心豊かな学校生活の実現を図る。	積極的に教室内の整理整頓に努めた生徒が A 95%以上である。 B 90%以上である。 C 85%以上である。 D 85%未満である。	C 7月の教育活動に関するアンケート（生徒）85%	保健環境課 昨年度中間89%、最終評価92%であったが大きく数値を落とした。日常的に生徒の美化意識を高めるためには教職員側の継続的な指導が必要であり、こまめに声掛けを行なっていきたい。美化活動を意識した取り組みを工夫していきたい。
⑤ 生徒の良好な人間関係づくりを支援して、いじめ等を防止し、不安なく充実した学校生活を送れるようにする。	学校生活に概ね満足している生徒が A 80%である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	A 7月の教育活動に関するアンケート（生徒）83%	教育相談課 年度当初は人間関係に不安を感じている生徒も多く見られたので、それをできるだけ解消できるようにスクールカウンセラーとともに面談を行った。今後も生徒の様子を見守り、声掛けを行ない、不安なく生活できるように支援していきたい。	
学校関係者評価委員会の評価	目的意識をしっかりと持った生徒を育てて欲しい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	「あいさつ・感謝・時間を守ること」などの基本的な生活習慣の指導を学校生活で確実にいき、職場体験や地域交流を通して社会のルールを学ぶとともに、進路についても考える機会としたい。			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）
2 授業の工夫・改善と生徒の進路の実現。（やる気を高める授業の実践、GIGAスクール構想の推進、体力の増進、生徒の進路意識の向上）	① 教材・教具や指導方法を工夫して生徒の興味・関心を引き出し、やる気を高める授業を行うよう授業改善に努める。	わかりやすく興味・関心を引き出す工夫が感じられると答える生徒が A 90%以上である。 B 80%以上である C 70%以上である。 D 70%未満である。	B 7月による授業評価で肯定的評価（生徒） 86%	教務課 教員が生徒の実態に合わせて興味関心を喚起させる授業改善に取り組んでいるが、更なる工夫が必要であると考え。また、ICT機器の積極的な活用による授業改善が教科によってバラつきがあるものと思われる。今後も定期的な研修等を行うことが必要と思われる。
	② GIGAスクール構想の推進を図る。	1日6時間（火曜のみ7時間）の授業、ホームルーム等での活動にクロムブックを2回以上活用していると答える生徒が A 80%以上である。 B 70%以上である C 60%以上である。 D 60%未満である。	D 7月の教育活動に関するアンケート（生徒） 40%	教務課 授業だけでなく各種アンケート回答での活用など使用頻度としては増加傾向にあるが、1人1台端末として活用するところまではできていない。活用している授業では「振り返り」や自分の考えをまとめたりする場面での活用が増えてきていると思われるので、これらを継続しながら他の効果的な活用方法を模索していく必要がある。
	③ 生徒の体力向上に努め、たくましい人間づくりに取り組む。	前年度の自己記録を超えた生徒が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	B スポーツテストの結果 73%	体育管理課 前年度の自己記録を超えた生徒138人（2，3年生）73%の生徒が体力合計点数が向上した。また、どの学年の全国平均と比較して、ほぼ同様もしくは優れている。バランスも良くこれからの指導によって、まだまだ伸びる要素を持っている。
	④ 個々の進路希望に沿って丁寧な支援を行い、確実に進路希望の実現を図る。	進路決定率が A 100%である。 B 95%以上である。 C 90%以上である。 D 90%未満である。	—	進指導路課 最終集計で判断する。
学校関係者評価委員会の評価		1人1台端末を授業の開始時に復習問題等で活用し結果を可視化するなどして、授業参加への意識を高めるなど工夫すると良いのではない。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		端末の活用方法だけでなく、「主体的・対話的で深い学び」を実現するために研修会や互見授業などを行い、教員の授業力を高めていきたい。		

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）
3 部活動・生徒会活動の効果的、計画的な実践と地域社会と連携した活動の推進および速やかな情報発信 (全国大会での上位入賞、地域活動の推進、情報発信)	① 県内トップレベルの競技力を維持し、全国大会に出場できる各種トレーニングや実技指導を行う。	全国大会に出場した部活動が A 8部以上である。 B 6部以上である。 C 5部である。 D 5部未満である。	B 全国高校総体等に6部出場(男女柔道、ウエトリテイク、ローイング、なぎなた、射撃)	体育管理課 昨年と同様6部が全国高校総体等の出場を決めた。外部活動でボクシング競技に1名出場した。今後開催される国民スポーツ大会、全国選抜大会等へ女子バスケットボール部の出場が期待できる。
	② 部活動を計画的に実施し、科学的な理論に基づき効率的・効果的に生徒の技術向上を図る。	部活動が計画的で充実していると思う生徒が A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	B 7月の教育活動に関するアンケート (生徒) 82%	体育管理課 大雨や高温による熱中症予防のため、予定通り活動できないことがあった。各部練習体制の見直し等により、想定外の場合を念頭に計画的に実行できるように工夫し、効率の良い指導を心がけ、競技力の向上に取り組んでいきたい。
	③ 生徒会執行部の企画力・実行力を育み、活動を充実させるとともに、各種の行事を成功させ、学校生活の充実を図る。	生徒会活動が活発に行われていると思う生徒が A 75%以上である。 B 65%以上である。 C 55%以上である。 D 55%未満である。	A 7月の教育活動に関するアンケート (生徒) 81%	生徒会課 前期の報告会や壮行式など生徒主体の生徒会活動になるよう課題を持って取り組んできた結果であると思う。後期も文化祭、体育祭など生徒主体の活動が多くあるので、前期以上に意識して取り組んでいきたい。
	④ 様々な地域活動(ボランティア等)に参加する生徒を増やし、社会貢献の必要性、他者と協働する意識を高める。	様々な地域活動(ボランティア等)に参加したと答える生徒の割合が A 60%以上である。 B 50%以上である。 C 40%以上である。 D 40%未満である。	D 7月の教育活動に関するアンケート (生徒) 29%	生徒会課 外部ボランティアへの参加が減っている。3年生による町内清掃等を行ったが、生徒自身が実感を持っていない。担任を中心に教員もそのような活動が地域と繋がっていることを生徒に伝えていきたい。
	⑤ 学校通信(校内、地域)の発行やHP・学校メール配信により部活動や生徒会活動の様子などをきめ細かく発信する。	学校のHP・学校通信の内容や学校配信メールの発信内容が充実していると感じている保護者の割合が A 85%以上である。 B 75%以上である。 C 65%以上である。 D 65%未満である。	A 7月の教育活動に関するアンケート (保護者) 85%	総務課 昨年度の同時期と同じで、満足している割合が85%であった。今後も、継続した取り組みの中で、ホームページや学校通信また部活動の結果等で、常に新しい情報発信ができるよう努めていきたい。
学校関係者評価委員会の評価		地域活動はボランティア活動だけでなく、地域行事(祭礼など)への参加も含まれると思う。様々な形で津幡町とつながって欲しい。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針		ボランティア活動以外でも行事に参加していることで文化を継承していること、それらで地域とつながっていることを伝えていきたい。また、そのような活動を学校HPや学校通信で発信していきたい。		

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）
4 教職員の時間外勤務を削減することによる教育活動の充実。（効率的な業務の推進）	① 教職員のワークライフバランスの実現に向けて、校務の効率化に取り組み、時間外勤務の削減を図る。	月80時間以上の時間外勤務のある職員の延べ人数が A 0人である。 B (月数×1人)以下である。 C (月数×2人)以下である。 D Cを上回る。	C 7月までの4ヶ月で時間外勤務時間80時間を超える人数が8人	昨年度同時期の集計より3人減少であった。徐々にではあるが校務の効率化が教職員全体に浸透していることが確認できる。80時間を超える教員は固定されており、部活動指導において県外大会への参加や校外会場での練習によるものである。削減は難しい面もあるが、今後も継続してワークライフバランスの実現に向けて取り組んでいきたい。
		(全教員)タイムマネジメントや業務の効率的な推進を意識した働き方をしていると答えた教職員の割合が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	A 7月の教育活動に関するアンケート(教職員) 89%	R5年度中間評価・最終評価 共に77% 多くの職員が意識して仕事の効率化に取り組んでいることが確認できる。毎月の定時退校日を確実にアナウンスしてきた成果であると考え。今後も各課、学年での業務の割り振りなどを工夫し短時間で効率的な働き方に繋がるように取り組んでいきたい。
学校関係者評価委員会の評価		部活動指導で時間を費やすこともあると思うが、ワークライフバランスを実現するための意識は常に持っていて欲しい。また、校務の効率改善に関して、ペーパーレス化への取り組みを進めていくと良いのではないかな。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		部活動指導、校務共に効率的に行われるよう取り組み、心身が整った状態で勤務できるよう取り組んでいく。		